

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500302		
法人名	池田ライフサポート&システム株式会社		
事業所名	グループホームわかばイースト		
所在地	秋田県由利本荘市荒町字真城42番地2		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和2年11月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅での生活の延長という事を大事にしています。行きつけの美容院でのカットやお墓参り、畑仕事や家事の継続を、ほんの少し職員がお手伝いすることで続けていけるよう対応しています。また、グループ全体で取り組んでいる10の基本ケアを実践し機能回復を目指しています。  
 10の基本ケア・・・①換気をします②床に足をつけて椅子に座ります③トイレに座ります④あたたかい食事を食べます⑤家庭浴に入ります⑥座って会話をします⑦町内にお出かけします⑧夢中になれることをします⑨ご本人・ご家族様が参加した担当者会議を開催します⑩看取りケアをします

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年6月に新規開設した施設で、同敷地内に看護小規模多機能型介護施設泊り利用者9名と、29名入居者の地域密着型特別養護老人ホームが廊下でつながっており、職員は相互に支援をしている。幹線道路には、大きな商業施設、会社があるも静かな環境のところにある。  
 良い点  
 利用者の様子をご家族に情報提供しているが利用者の写真とともに利用者自ら一言添えたお便りにしている。職員が自分の目標を持ち、⑩の基本ケアを職員一人一人が実践していこうとしている姿勢はとても素晴らしい。  
 工夫してほしい点  
 同姓介護を口頭説明しているが、今後は契約書等に記入し、同意が得られた場合はアセスメントに記入する欄を設けるなどの工夫を期待します。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者と</b> 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだ、理念の共有、実践にはつなげていない。まずは、職員への理念の共有から始めていく必要がある。	廊下に理念が掲示され、開設して間もない施設であるも職員が理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響が少なかった頃は、入居者様と近くのスーパーへ買い物に出掛けていたが、現在は出来ない状況になってしまった。	開設して間もない施設ではあるが、地域との交流を積極的に取り入れていた。現在はコロナ等の感染防止のためできない状況が続いているも、希望を取り入れ利用者一人一人の要望を考慮し密を避けながら買い物支援は続けている。	
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	今は自分達が認知症の方に対する理解や支援について勉強中で、地域の人々に伝えるまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、取り組み状況を報告している。今後はそこでの意見をサービス向上に活かせるようにしていきたい。	運営推進会議は看護小規模多機能介護施設と一緒に2か月ごとに開催している。利用者ご家族には取り組み状況を報告し、施設の状況を発信している。今回の会議は、コロナ禍で初めて利用者家族も参加の予定となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも包括の職員にも参加して貰ったり、地域ケア会議に参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に、地域包括支援センターからも出席し、事業所の活動報告を伝え、質疑応答・市と情報交換をし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが、看多機と一緒に身体拘束委員会を毎月行いケアに取り組んでいる。	玄関や居住入口の施錠もしていない。身体拘束をしないケアを施設全体で取り組んでいる。委員会を毎月開催し、ヒヤリハット事例を分析し、事故防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所研修で年に一度、「高齢者虐待防止」について勉強会を開催、今年度は11月開催予定。職員間でもお互いに注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する方がいない為実施していないが、職員のスキルアップの為に今後勉強会などを行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際は、担当の居宅ケアマネと同行し、何でも聞ける雰囲気を作っていた。話やすい環境であった為、気兼ねなく質問してもらう事が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者については生活の中で遠慮なくご意見を伺っている。運営推進会議でも利用者の意見や要望を聞く機会を作れている。ご家族については参加率が低い為気軽に参加して貰えるようにしたい。	コロナの感染予防のため、今まではご家族の参加は低かったが、今回の運営推進会議から、ご家族に参加をお便りでお願ひし、ご家族の意見や要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	色々な工夫して利用者を楽しませてくれている。たくさんアイデアを上げて貰い実施している。	部門会議(管理者リーダー、サブリーダー、統括、施設長、本部企画室)やリーダー会議(グループホーム内)を毎月開催している。また、評価会議で、管理者は職員の意見や提案を上申し、運営に反映させる体制がある。施設内の行事等には職員の意見をできる限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自社での評価制度がある。定期的に評価を行い賃金アップなどしていく為、向上心が持てる環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加や、資格取得の促しを積極的に行っている。役割を持って、仕事にやりがいを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ入会している。今年はコロナの影響で会合が無い為横のつながりは薄い。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の居宅ケアマネと同行し話しやすい環境を整えている。初回面談の段階で、今までの生活状況や希望する生活について確認している。否定せず傾聴することで安心感を持って貰えるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の前では言い辛い事がある場合には再度訪問し、安心して気持ちが言えるよう配慮している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように考えてくれている。利用者も職員に対してあだ名や名前前で呼んでくれている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会できない状況でも、日々の生活状況が把握できるよう毎月写真つきのお便りを送付している。受診なども出来る限りご家族にお願いし、体調なども把握して貰えるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医も変えずに今まで通り通院して貰っている。また、行きつけの床屋などにも送迎し入所前の関係性を継続している。	入居前の関係を断つことなく、今まで付き合いのあった馴染みのところへの送迎をし、今まで通りの生活圏の中での生活を支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら、トラブルがないよう注意して対応している。また、個々の話を傾聴し不満を抱えないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了者はいない。しかし、利用者の配偶者や知り合いの方についての介護相談は受け、情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活状況を把握し、本人の気持ちに沿った支援方法を検討している。どんな方だったのかなどをご家族から情報を頂いている。	ご家族からの情報と、本人の希望や意向をできるだけ把握し、支援方法を検討している。なんでもノートに記録し、日々の関わりからも思いや意向の把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族はもちろん、居宅ケアマネや利用していた事業所へアセスメント行いこれまでの暮らしの把握を行っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が気づいた点などを都度話し合いながら、ご本人の出来る事や望む生活について検討を行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の助言を受けつつプラン作成している。担当者会議へご家族に参加して貰い、どんな生活を送って貰うかイメージできるようにしている。	担当者会議を開き、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成しているとのこと。施設の日課表、サービスは介護計画に個別の1日、24時間シート記載確認。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、申し送り事項などを活用しながら、日々の業務の中でも意見交換を行っている。また、評価の時期には、リーダー職員などに情報提供をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やなじみの方々との関係性が途切れる事のないよう配慮している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医への受診を継続している。定期受診の際は、生活状況報告書を作成し主治医へ情報提供を行っている。	入居者は担当医師を変えることなく、今まで通りのところで医療を継続し、担当医とも情報交換をしている。歯科医師とのかかわりは不足しているようだ。	入居者の健康のため、出来れば口腔内の健康のためにも歯科医及び歯科衛生士との連携することは、今後必要なことではないだろうか。
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ都度、生活状況を説明し必要な助言を求めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の連携室へ情報提供を行い、退院前の状態確認など積極的に情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規契約の段階から、看取りについて説明を行っている。状況に応じてご家族と話し合いをしっかりと行いながら対応していく。	利用開始時に、看取りについて説明されている。ご家族と、状況に応じて検討しているが、同意まで至らないケースもあるが、看取りの体制は整っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて事故発生時の対応について学んでいる。AEDの操作方法などの確認を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、非常災害時の対応研修を行い、併設事業所の職員との連携を図れるよう確認している。	新規施設であり、年2回の避難訓練を併設施設職員と連携を図り、次回は12月に行う予定である。施設の周りは川に挟まれており、水害時は施設の駐車場が周りより高いところにあるため避難場所となる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言にくい事は居室で傾聴するよう心掛けている。ご本人の気持ちを尊重した対応を行っている。	入居者に対して、それぞれの場面において、丁寧でプライバシーに配慮した言葉かけがされている。声のトーンや速さもとても適切であった。支援の情報共有は申し送り、会議などで行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症になっても好きな物を選ぶという事は出来るので、その方が決めるという事を意識して対応している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに出来るだけ合わせて対応する事を心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った物、本人の好みにあった物をご家族に持って来て貰いその方らしいおしゃれが楽しめるよう対応している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳などにも積極的に参加して貰い、食事が楽しみになるよう支援している。	利用者一人一人が自分の役割があり、積極的に参加し楽しみながら行っている様子が確認でき、職員も一緒になり、準備や後片付けをして支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量の確認、食欲の有無、嚥下状態を日々把握し、食事の好みにも注意しながら提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア、ナイトケアの際に状態にあった対応で口腔衛生を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	都度、トイレ誘導・声掛け行いトイレでの排泄が出来るよう支援している。紙パンツの方でも失禁が少ない状況となった際には布パンツへ移行している。	排泄チェックはタブレットで管理され、排泄がない場合は確認サインが表示され、職員は排泄を確認・誘導の支援を行っている。目指す10の基本ケアに「トイレに座ります」を掲げ、排泄の自立支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内を散歩して貰ったり、食事や水分の調整を行いながら対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせた入浴時間には出来ていない。こちらの都合に合わせて貰っている状況。	午前中の中の入浴はできないが、午後は一人一人の希望やタイミング、健康状態に合わせて入浴を楽しめるように支援をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが崩れない程度に、一人一人のペースで起床、就寝して貰っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確実にファイリングし、都度定期受診で情報提供を行っている。内服薬が変わった際には申し送りに注意点等も上げ、情報共有を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者が殆どの為、家事をして貰っている。花や畑など土を触る機会を作ったり、趣味の将棋などが出来る状況となっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診や、ドライブなどへの外出は毎日行っている。定期受診に関しては、ご家族にも協力して貰っている。	定期受診や、ドライブなどへの外出は毎日行っている。訪問当日も、入居者が落ち着かない様子で何度も外に出ようとする仕草が確認され、職員が施設内の散歩などの支援をしていたが、落ち着きを取り戻すことができない様子で、本人をドライブに誘って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫で管理しているが、出掛ける際には小遣い程度所持して貰い、買い物を楽しめるよう支援している。(現在はコロナの影響で出来ていない)		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の夏に、ご家族へ残暑見舞いを送り喜ばれていた。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は薪ストーブを焚き、暖かい色の色彩を意識した建物となっている。利用者居室はその人らしい部屋となるように物を持って来て貰っている。	施設内の共有空間には薪ストーブが設置されており、リビングにおいても不快や混乱を招くような刺激などは感じられず、居心地の良い空間となっている。リビングのテーブルや椅子の高さも座りごち良く快適である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の空間、ソファを2カ所に設置している為、各々で自由に過ごして貰っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団や家族の写真などを持ち込んで貰い、居心地の良い空間となるようにしている。	居室は、使い慣れた家具や使い込まれた装飾品でレイアウトされ、居心地の良い空間になっている。また、空気清浄器や加湿器も各部屋に設置され、快適な住環境に配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室が分かりやすいよう工夫している。看護小規模多機能へ自由に行き来できるよう廊下に事務所を置き、見守りが出来る環境となっている。		